

## 1. 長崎市から初めて発見された植物

### ○モエジマシダ(イノモトソウ科)

熱帯から亜熱帯に生育するシダで、日本では九州南部以南に分布しますが、古くから大分県別府、和歌山県白浜にも知られ、これらは温泉地であり、地熱が高いせいかも知れません。県内では西海市大瀬戸町や新上五島町にも記録されています。長崎市神浦向町から大瀬戸町雪浦小松郷の西彼杵半島広域林道沿いに何キロにも渡って生育しているのを発見することができました。最近になって本州西部の各地から生育地が発見されており、これらを国内外来種とする考え方もあります。地球温暖化が関係しているのかも知れません。



図 1. モエジマシダ

### ○ヒメドコロ(ヤマノイモ科)

ヤマノイモとよく似ており、これまで意識して調べられてきませんでしたので、県内の分布ははっきりしていません。雲仙岳山麓には確認していますが、その他の地域ではまだ見つけていません。市内の下黒崎町の山地に比較的多く生育しているのを発見することができました。ヤマノイモの葉が対生に着きますが、ヒメドコロは互生に着きます。しかし、これだけでは他の種と誤ってしまうことがあります。



図 2. ヒメドコロ

### ○シロバナムラサキニガナ(キク科)

ムラサキニガナは薄紅紫色の花を咲かせますが、これは白い花を咲かせる品種です。ムラサキニガナは山地の林縁部にふつうに見られますが、本品種は県内で初めて岩屋山で見ることができました。



図 3. シロバナムラサキニガナ

### ○フウセンアサガオ(ヒルガオ科)

本種は東アフリカからオーストラリア北部，東南アジアを経て，中国南部，台湾，琉球列島まで分布するつる性の多年草です。海流散布することが知られ，日本本土でも漂着種子由来の発芽個体が知られていましたが，開花・結実していることは知られていませんでした。しかし，2021年に西海市大瀬戸町で開花していることが発見されています(中西 2022)。2023年に香焼町の海浜のハマゴウ群落の中につるの長さが4m以上に伸びた本種を発見することができました。12月中旬にはつぼみをつけているのを確認しました。その後は訪れていませんが，寒さで枯死したものと思われま。同じヒルガオ科で海流で散布される熱帯・亜熱帯性のグンバイヒルガオも長崎市で越冬して開花することが記録されていますが，台風によって流出してしまって，現在は見られません。



図 4. フウセンアサガオ

## 2. 長崎市から初めて発見された外来植物

### ○シナサワグルミ(クルミ科)

ふつう各地の公園や街路樹として植栽されています。在来種であるサワグルミと似ていますが，複葉には翼が発達していることで本種とわかります。雲仙温泉街にも河川の中に1本野生化しています。畦別当町の河川沿いにも野生状態のシナサワグルミが2本あり，1本は胸高直径約30cm，高さ8m，もう1本は株元から2本にわかれ，胸高周囲はそれぞれ150cm，高さは18mほどある大木であり，県内では最も大きいものと思われま。



図 5. シナサワグルミ

## 3. 長崎県で再発見された植物

### ○ホタルカズラ(ムラサキ科)

市内でこれまで知られていた産地は田手原町甕岩のみで，発見されなくなって10年以上が経過し，絶滅したと考えられています。市内北部の下大野町で新たな生育地が発見されました。この生育地は傾斜地で，10株以上が群生していました。県内に広く分布していますが，まれです。



図 6. ホタルカズラ

#### 4. 発見された貴重植物

##### ○ヤクシマハチジョウシダ(イノモトソウ科)

以前は長崎県内では知られていなかったシダ植物で、最近になって五島市、西海市、佐世保市、長崎市、東彼杵町などで発見されるようになりました。長崎市では旧市内の南部に知られていましたが、今はシカの食害により見られなくなりました。今回市内東部にいくつかの生育地があることがわかりました。ハチジョウシダの仲間は市内にはヤワラハチジョウシダが生育しています。



図 7. ヤクシマハチジョウシダ

##### ○ヘゴ(ヘゴ科)

長崎県では五島列島以外にも本土側の長崎市と西海市で発見されています。長崎市では3カ所に知られていましたが、公共工事の影響で1カ所は枯死し、他の1カ所も生育に影響を受けています。新たに野母町の谷に1株生育しているのを発見することができました。茎の高さは約1m、葉の長さは約2mで、今年の冬は暖かかったせい、霜の害は全く見られませんでした。最近になって本土側でヘゴの生育地が次々と発見されるようになったのは、温暖化の影響と考えられます。



図 8. ヘゴ

##### ○ホンゴウソウ(ホンゴウソウ科)

古くから知られている腐生植物(今は菌類従属栄養植物と呼ばれます)、分布は広く、県内でも対馬や西海市、諫早市などでも記録されていますが、まれです。市内では県民の森付近で発見されましたが、飯盛山付近でも発見することができました。ホンゴウソウと共に生育しているのは同じ腐生植物のヒナノシヤクジョウソウであり、ヒナノシヤクジョウソウは最近になって各地に発見されるようになりました。今後ホンゴウソウも各地で発見されることが期待されます。同じ腐生植物のウスギムヨウランやタシロランなどもかつては非常にまれであったものが、最近各地で発見されるようになりました。このように森林内の林床に生育する腐生植物は、かつて薪炭林であったものが、伐採されなくなり50年以上も経過し、腐葉土が堆積したことや、温暖化が影響していると考えられます。



図 8. ホンゴウソウ

### ○ギョクシンカ(アカネ科)

亜熱帯性の常緑低木で、九州西廻り分布植物の一つで、佐賀県が北限です。長崎県では五島市、新上五島町(相ノ島)、平戸市(下阿値賀島)、壱岐市、長崎市に知られています。長崎市では香焼島、深堀町、樺島、野母権現山に発見されています。野母権現山にはこれまで2株を確認していましたが、あらたに2株を発見することができ、合計4株が生育していることがわかりました。土壌が浅く、乾燥しているせいか、いずれも2m以下の高さでした。



図 9 ギョクシンカ

### ○ウスゲチョウジタデ(アカネ科)

湿地に生育し、水田雑草のチョウジタデに似ていますが、果実に細かい毛が多い特徴があります。県内に広く分布していると思われませんが、長崎市、西海市、佐世保市(宇久)、平戸市、諫早市から記録されています。長崎市では相川町に知られていましたが、松崎町の湿地に100株ほど生育しているのが発見されました。チョウジタデよりも大きくなります。



図 10 ウスゲチョウジタデ